



【発行】京都教育センター事務局

〒606-8397

京都市左京区聖護院川原町4-13

京都府教育会館3階

TEL &amp; FAX 075-752-1081

ホームページ <http://www.kyoto-kyoiku.com/>

メール : kyoto-kyoiku@center.email.ne.jp

## チリのアジェンデ政権の闘いに学ぶ

高 橋 明 裕  
(京都教育センター運営委員)



解散総選挙となり、大軍拡を行おうとしている自民党も消費税の食料品限定非課税を言いだしました。右派の参政党、左派のれいわ新選組まで消費税廃止・減税を称え、財源を明示して国民負担を軽減する政策を打ち出している政党との峻別が問われます。野放図な国債発行と大型予算は既に日本国債の下落と金利上昇、円安を招いています。自民党や右派の「ナショナリズム+国債発行による歳出拡大」路線と、「平和と民主主義+責任ある財政運営」路線との対決となっています。国民負担を軽減し、格差を是正するためには大企業や富裕層に正当な負担を求める政策への転換が必要ですが、そうした政権が樹立されたなら、市場や大企業・富裕層は拒否反応を示すでしょう。しかし、それを恐れて政策転換はできないと思います。

一九七〇年に選挙で勝利し、一九七三年にアメリカと結んだ軍部のクーデターによって、大統領府を空軍機が空爆して崩壊させられたチリのアジェンデ政権を記録した映画「最初の年」・「チリの闘い」（三部構成）を観ました。監督は自らも一時、軍部に拘束され、その後、亡命し貴重な記録フィルムを持ち出して復元したパトリシオ・グスマン監督です。「最初の年」は政権を獲得し、鉱山・基幹産業の国営化を進めるとともに、チリを訪問したキュー・バの力ストロ議長と共闘する様子など、左派政権の実績を記録しています。「チリの闘い」では、まず上流階級の婦人たちが左派政権に対

して抗議デモを始め、運輸会社の経営者たちがトラック運転手にストを命じ、物流を止めます。その資金はアメリカから出ていました。さらに経営者団体がゼネストをしきけます。それに対しても、アジェンデ大統領を支持する労働者、市民は職場・工場を自ら管理して操業を続け、国民に非必要な物資を供給します。バス運転手は人々の足として運行を続け、トラック運転手も市民を乗せて市内を走り続けました。運輸会社のストによって止まった物流は、自治組織をつくった人々が人民商店を立ち上げて商品を供給しました。

忘れられないシーンは、「チリの闘い」第三部「民衆の力」のラストです。工場で自主管理操業を続ける熟練労働者にインタビューします（恐らく、インタビューアはグスマン監督本人）。熟練労働者は言います。右派の動きはわかっている。右派に対して断固とした措置をとるべきだ。アジェンデ大統領は右派を排除すべきだ、と。アジェンデはそれをしないまま、空爆されて防衛隊員とともに亡くなりました。インタビューアは労働者に「共に闘い続けましょう。また会いましょう」と言って、映画は終わります。恐らく二人は再会できなかっただことでしょう。現在の日本でも、国民のための政策に対する市場や大企業の反応に惑わされず、右派の排外主義を断固として排除する必要を学びました。

## 全国「教育のつどい」[2025]報告レポート

### 居場所・児童館のとりくみ

京都府内児童館 宇多野一介

はじめに

急加速する不登校人口の増加。「不登校」に対する認知度はかつてより進んでいるかもしれません。無理矢理学校に行かざなくとも…という人も増えている気もします。けれど、こどもたちが息苦しくて行きたくない学校では困ります。「学校へ行かない」選択ができずに苦しんでいるこどももいると思います。こどもたちの成長発達のためにどのような場所が必要なのか、児童館の現場から報告したいと思います。

#### 1 児童館ってどんなところ?

児童館は、児童福祉法第40条に規程されている児童厚生施設の一つで、「児童に健全な遊びを与え、その健康を増進しましたは情操を豊かにすることを目的として設置される屋内型児童厚生施設と規定されています。

わたしたちは、「あそび」は日々の生活の中で、こどもの権利として保障されねばならないものと考えます。こどもは遊びを通して自己選択と決定を繰り返します。その中で幅広い興味、思考、想像力、他者との調整力を学び、また指定や体幹など体のバランスを整えることなど、こどもが成長発達するために欠かすことができません。

児童館は、全国的に4500ヶ所ほどあり、うち4割ほどが民営となっています。自治体により、その設置状況や職員配

置・処遇はまちまちで、老朽化と少子化を理由に減少傾向がみられます。こどもの権利条約が批准されて30年間、こどもの声を聴いてこなった社会は、あそびがこどもにとって不可欠であるという価値観が形成されておらず、積極的な予算が付きにくい現状を抱えています。

京都市（一歳未満の人口は一三万五千人）の場合、一三一館すべてが、社会福祉法人などの民間委託（公設民営・民設民営）にもかかわらず、行政と本市児童館連盟（現場の職員で構成する団体）が共に指針を作り、充実した研修制度を作っている全国でも先進的な児童館です。一中学校区に一か所以上が設置されており、こどもが歩いて行ける範囲にあります。

また、そのほとんどが学童保育事業を行っており、一元化児童館と呼ばれています。

京都市の場合、児童館は月曜日から土曜日の一〇時から一八時まで開館。学童クラブ事業については、土曜日と学校休業期間は、八時から一八時までが利用時間となっています。職員は館長含め五名の正規職員のみ。また学童クラブを利用する非定型発達のこどもをサポートするために有償ボランティア制度があります。

本県児童館を主に利用している小学校は、一学年500数名の規模ですが、今年度の学童の登録人数は一~3名、3クラスを運営しています。



午前中は、3か月くらいの赤ちゃんから保育園・幼稚園に行くまでの乳幼児さん親子のクラブ活動やあそび場のは、学童クラブのこどもたちであふれる中、ゲーム機をもつて遊びに来る小学生、自分たちがやりたくて発足させたクラブ活動や、何かの企画の相談グループ、本棚の隙間に体を押し込んで読書に没頭する子、暇やし来たるという子等々、それぞれに自分の放課後を過ごしています。また夕方になれば中高生が隙間を見つけてやってきては、仲間同士で遊んだり、小学生の相手をしたり、職員を捕まえて喋ったり、試験勉強をして、たりと自由です。

#### 2 児童館と不登校のこどもたち

2023年度、時折朝から4人の中学生がやってきました。中学生の男の子2人と中学2年生の女の子2人です。2人は元学童のこどもたち、あとの2人は、時々遊びに来ていたこどもたちです。最初のうちは、どうしたのかなあ~と気になりつつも、あれこれ詮索せず、そつと見守っていました。しばらくすると中2の子たちのお母さんと仲

の良かつたMさんがやってきて、「Kちゃんのこと知ってる?」と話してくれました。「時々来てるんだけど、Kちゃんのお母さんはどんな感じ?」と聞くと、「なんだか気にしないようにしたいのか、前より働きすぎて…。あんまり連絡もとれないのよ」と。もし、「何か話したくなつたらいつでもいいよ」と伝えて「だけお願いしました。Kちゃんのお母さんが来る」とはなかつたけれど、時々Mさんが気にかけてくれていました。Kちゃんは、小学生の時は快活で頑張り屋さんでよく気の付く子でした。ところが、やつてくるKちゃんは、黒い服と黒いマスクに身を包み、なんだか大丈夫?と気になるような雰囲気を漂わせていました。職員間でも理由は説明しないこと、学校に行こうが行くまいが児童館は関係ないこと、いつも通りの声掛けをする」とで意図統一しました。時折何気ない会話をとしていくつかに、Kちゃんは、不登校の子どもたちが通学できる中学校に転校したり、どうことが分かりました。が、そこも今一つ合わないようで、本人もどうしようかと迷っていました。ただ、イラストが上手で、タブレットを使って書いたものをみんなに見せてくれ、将来はイラストレーターになりたいから、そろそろ高校に行くのだと目標がありました。一度吐き出してしまえば、本人も肩の力が抜けたのか、少しずつ以前のKちゃんの姿が見えるようになりました。児童館のイベントがあるたびにお手伝いをお願いして、快く引き受けてくれました。ついでKちゃんもお願いして頑張らせてしまつのですが、本人は、人前で色々するのは疲れると、今年は違う仕事がよいなどしっかりと自分の気持ちも主張できるようになつていきました。元の学校に戻って卒業し、自分が行きたかった専門学校にこの春から通い出しました。先

日々じぶりにやつてきたKちゃんは、ステキな緑色に髪を染め、マスクは外していました。そして変わらず児童館のイベントのお手伝いを引き受けてくれます。

一足先に高校生になったAくんとBくん。彼らは、小さな小学生女子からとても人氣で、楽しく一緒に遊んでくれます。彼らも中学時代は黒くてマスクが外せず、なんだか鬱々とした様子でしたが、それぞれに行きたい公立高校へ進學し、軽音部に入つて楽しく過ごしています。児童館のまわりなどは、中高生フースでティックアウトカフェの売り子をしてくれ、今度は、ステージで演奏させてよーと、うほどになりました。

特に児童館が何かをしたということではないけれど、彼らにとって居心地のいい場所にしておきたいという気持ちが、児童館が何かをしたということではないけれど、彼らにとって居心地のいい場所にしておきたいとおもったと思ひます。普通にお願いしたり、おわりに

中高生のあつまりに誘つたりしてきました。そして、何が原因かはわからない中学校での不登校生活ですが、彼らの口からこぼれてくるのは「学校おもんじゃない!」でした。

3 地域の中に居場所を

児童館の良さは、0歳から8歳どどもの成長を長く見守れるところです。そして、その保護者どつなかり、地域の人とつながりながら、異年齢異世代が緩やかにつながっているところです。

朝赤ちゃんと触れ合つことで、ほつと和む子どもたちはたくさんいます。赤ちゃんの癒し効果は絶大です。そして、そのお母さんお父さんのまばたきも暖かい。そのままの状態を受け入れてくれます。そんな自然な交流は、わが子が

もし・の時に、児童館に来ていいんだなど、うメッセーージもなつてゐる気がしていきます。

学校に行つても、行けなくても、行かない選択をしても、どの子も同じ地域で育ちあつて、どもたちです。地域に、自分らしくいられる場所がたくさんあることが、安心して大きくなれると思っています。

学区の中には、文庫として居場所を作り出した人学習支援をしようと居場所を立ち上げた現役の中学校の先生、自分の家について、どもの友だちが、飯を食べに来ていました。そんな「どもたちを応援したいと食堂を始めたお母さん。地域の中にいろいろな人がいることがステキで、繋かりあつて、どもたちが安心できる街」したいと思っています。

サードプレイス=第3の居場所と、はやり「暮のよう」に国は言い出しました。制度ができて、場所だけあっても居場所とは言えません。こどもにとつても大人にとつても、安心していつでも頼つていい場所は、暖かいみなぎりで見守り続けている人が、長くいる場所なのだと想ひます。

同じ「どもの」ことを考える時に、学校も地域も保護者もそれぞれの立ち位置で見えることを出し合しながら、共に考えることが当たり前になつてほしいのと同時に、その子がどうしたいのがが大切にされるような社会であつてほしいと願います。

(教育センターの責任で要約いたしました。)

## 京都教育センター 2025年度活動の報告

# 「学習指導要領」の問題点を明らかにし、 「学校・教師とは？」を発信しました

### 1. 第56回京都教育センター研究集会・第75回京都教育研究集会

12月20・21日（土・日）、集会テーマは「どの子も教職員も行きたくなる学校に！ 憲法と子どもの権利条約が生きる学校と社会を～みんなでつくりう “子どものいのちを大切にし、成長を保障する教育”」を掲げた。記念講演は「日本の学校の現状と課題ーなぜ子どもも教職員も苦しいのかー」と題して本田由紀さんが話され、その後のトークで保護者と小学校教員が学校の行きづらさや取り組みを報告した。

参加者は全体会158人、分科会132人。

### 2. 学習会の開催

センターとして以下の学習会に取り組んだ。

- ・「学校・教師とは？」をめぐる課題を掘り下げていく学習会 4/13
- ・「対話で学ぶ教師のための学習会」5/10 「クラスの中の気になる子—5月のこの時期に—」  
11/1 「つながりをどうつくるか—子どもどうし・教師どうし・子どもと教師」
- ・「改訂学習指導要領」連続学習会 6/28 植田健男さん 11/30 石井拓児さん
- 「京都教科書問題連絡会」として、以下の学習会に共催で取り組んだ。
- ・6/21 「授業を貧困化するICT教育を超える」子安潤さん（愛知教育大学名誉教授）
- ・12/7 「新自由主義と排外主義下の教科書・教育を考える」久保田貢さん（愛知県立大学教授）

### 3. 教育研究集会・民教委・民研などへの参加

第75次京都教育研究集会分科会は、1月18・25日、2月7日に行われた。共同研究者・世話人として2回でのべ36人が参加し、各分科会の内容検討につとめた。

8月の「全国教育のつどいin埼玉」に参加した。

### 4. 季刊誌「ひろば・京都の教育」の発刊

- |             |  |
|-------------|--|
| ・222号(5/1)  | ①教えることの楽しさ ②地域で子どもが育つ  |
| ・223号(8/1)  | ①今、性教育の大切さ ②ホントはいい教育したいのに  |
| ・224号(11/1) | ①京都府の子育て・教育は今 ②今、性教育の大切さ2  |
| ・225号(2/1)  | ①どの子も教職員も行きたくなる学校に！—京都教育センター第56回研究集会・<br>第75次京都教育研究集会— ②宿題って、ホントに必要？ |

### 5. 「センター通信」の発行 <2025年度執筆者一覧>

167号	山岡雅博／野井真吾	170号	毛戸裕司／京都高校生平和ゼミナール
168号	宮下直樹／野井真吾	171号	山崎洋介／山川智美（福知山）
169号	葉狩宅也／山内さやか・西田陽子	172号	高橋明裕／宇多野こころ（児童館）

### 6. 出版活動

「学校・教師とは？」プロジェクトで、ブックレット第3分冊「戦後京都の教育から学ぶもの」（仮）を準備中。第1分冊、第2分冊、「あるがままのあなたでいいよ」など、これまでの出版物の普及。

### 7. 研究活動

「地方教育行政」「生活指導」「学力・教育課程」「発達問題」「子どもの発達と地域」「民主カウンセリング」「高校問題」「教科教育・国語」「障害児教育」の9つの研究会があり、それぞれ独自に研究活動を展開している。研究会員募集中。

### 8. 事務局・運営委員会体制

代表:山岡雅博 顧問:野中一也 研究委員長:高橋明裕 「ひろば」編集長:相模光弘 事務局長:本田久美子  
運営委員(上記含め): 植田健男 恩庄 澄 築山 崇 川地亜弥子 毛戸裕司 葉狩宅也 丹羽 徹  
宮下直樹 深澤 司 西田陽子 松岡 寛 細田俊史